



(写真提供:宇治川 博司)

美しいだけでは

琉球列島では、多くの島々でサンゴ礁が発達しており、その美しさを求めて大勢の観光客が訪れます。サンゴ礁は今や、地域の経済を支える大きな役割も担っているのです。

ありません

◆海、そしてサンゴに感謝!

サンゴ礁は、観光客を誘う観光資源としての価値に加え、台風による高波の力を弱めて海岸の浸食を防ぐなど、天然の優れた防波堤として私たちに計り知れないほどの恩恵をもたらしています。また、昔から漁場として人々に利用されており、豊かな海の恵を提供しています。そして、サンゴ礁は、地元の人々が祭事や憩いの場として利用してきました。私たちはこれからも、物心両面で多くの恵みを受け続けていくことでしょう。

海、そしてサンゴに感謝!



天然の防波堤

台風常襲の沖縄にとってサンゴ礁の果たす天然の防波堤の機能は計り知れない恩恵をもたらしてくれていることを忘れてはいけません。



海の幸

沖縄の市場では、サンゴ礁で採れた赤や青、黄色などの色とりどりの魚をはじめ、エビや貝、海藻などの新鮮な食材が手に入ります。



赤瓦屋根と石畳

赤瓦屋根に使われるしっくい、石畳や石垣に使われる石材は、サンゴの骨格そのものやサンゴ礁から切り出した石灰岩などからもつくりられています。



ビーチパーティー

沖縄では、5月、各地で海開きが宣言されると大勢の人が涼を求めビーチを訪れます。休日に子供たちが遊泳を楽しむ傍らで、老若男女がビーチパーティーを楽しむ光景が夏の風物詩となっています。



漁業

サンゴ礁の豊富な漁業資源が、遙か昔から沖縄の人々の生活を支えてきました。よそでは見られない、この地独特の漁法も培われてきました。



西表島で行われている節祭

海の彼方のニライカナイからミルク(弥勒神)を迎え、ごちそうとお酒を振る舞います。天地の神々にその年の豊作を感謝し、来年の五穀豊穡と人々の健康、島の繁栄を祈願する、300年以上昔から受け継がれてきた祭りです。



浜下り

沖縄には、春の大潮の頃に当たる旧暦3月3日に、女の子が浜において身を清め災厄を払うという慣習があります。今では、家族みんなで、潮の引いたサンゴ礁に出て潮干狩りを楽しむという光景が各地でみられます。